

ほんとうにここは平らですね。それは、わたしがけわしい山谷を渡ったから平らなのです。
ごらん下さい。そのけわしい山谷にいま、一面にマグノリアが咲いています。

オイリュトミー公演



マグノリア

……天にとびたつ、銀の鳩……

……サンタ マグノリア、
枝にいつぱいひかるはなんぞ……

2013年11月4日(月) 4時 開演 (開場3時半)

オイリュトミー・ホール
那須・奏身舎 那須塩原市鹿野崎175-17

T/F. 0287-63-4039

オイリュトミー：渋谷智栄子・安齋裕司

朗唱： 安齋裕司

ピアノ：田崎和美 山口智子

ピアノ：菅沼加代子

チェロ：菅沼萌 バイオリン：菅沼美月

照明： 横尾勝也

構成：渋谷智栄子

前売：大人¥2,000 子ども(5歳以上小学生まで)¥1,500
(当日券500円増)

●お申し込み/お問い合わせ

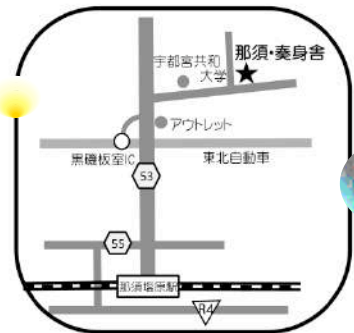
T/F. 0287-63-4039 携帯080-5695-4577

E-mail. nasu.sousinsya@snow.plala.or.jp 渋谷

●後援・協力 ぶどうの会・くりの木・とちのみ

●主催 那須・奏身舎

<http://www.sousinsya.sakura.ne.jp/>



プログラム第一部 30分

宮沢賢治「マグノリアの木」

フェデリコ・モンポウ「哀歌」

エックレス「ト短調ソナタ1楽章」

J・S・バッハ「カンタータ106番」

シュタイナー「死者のための祈り」

他

—休憩15分—

プログラム第二部 30分

塔和子「いのちの詩」

フランク「プレリュード」

スクリャーピン「プレリュード 6番8番」

ブラームス「インテルメッツォ」

オイリュトミー公演『マグノリア』によせて

渋谷 智栄子

マグノリア(モクレンやコブシなどの樹木)は、春の到来とともに大きな白い花を咲かせ、いのちの復活を思い起させます。宮澤賢治がことさら愛し、童話のタイトルにつけたのは、賢治の時代にも震災と津波が相次ぎ、多くの犠牲者の鎮魂とふるさとの再生を願ったからなのでしょうか。

第1部では天上の花を、第2部では地上の花を、ふたつの物語を「マグノリア」に託しました。

第1部……「マグノリアの木」

『けわしくも、刻むこころの峰々に いま 咲きそむるマグノリアかも』

けわしい山谷を渡り、やっとたどり着いた平らかさ。

それはこころの中の風景でした。

そこに、一面にマグノリアが咲き、童子が問いかけ、応えます。

『サンタ マグノリア、枝にいっぱいひかるはなんぞ』

『天に飛びたつ銀の鳩』

平かな世界とそこに咲き出す清らかなマグノリアは、これから天へ旅立つ魂、そして地上へと生まれる魂の象徴でしょうか。シュタイナーの祈りの言葉とパッサハのカンタータ106番には、亡き愛する者へのあたたかな想いがあふれています。

第2部……「いのちの詩」

峻しい山谷は、現実の人生そのものの象徴ともいえます。

この夏に亡くなった詩人、塔和子は、12歳のときにハンセン氏病を発病。14歳で大島青松園に入所してから、苦悩を見つめ、自己の存在の魂の叫びを言葉で紡ぎだしました。

「いのちの詩」より『錨』

暗い所に居た。

だからこの光は見える

鳥のさえざり空の広さ

私がもし 不確かな波と波との間の 暗い所にいなかったなら

これほどには心をとらえられなかっただろう

…

愁いをたたえるフランクのプレリュード。スクリャービンのプレリュード6番と8番は、運命の荒波を思わせ、ブラームスの間奏曲は、醗酵するワインのように、全ての過去を『輝かしく美しい思い出』へと変容させるような…そんな珠玉の作品です。

プロフィール

渋谷 智栄子[chieko shibutani]

オイリュトミスト。造形活動を経て、95年オイリュトミー・シュレ天使館1期卒業。06年より那須塩原市在住。09年、安齋裕司と共に奏身舎設立。地域に根ざした教育・芸術活動を行う。またハンディを持つ子どもたちとのオイリュトミーに携わる。東京、宇都宮、須賀川にても幼児から大人までオイリュトミーを指導。主な公演：03ハンディを持つ子どもたちとの舞台プロジェクト『Asobiらぁとり』04『めくらぶどうと虹』05『闇から光へ』07,08『マグノリアの祈り』

2012『十力の金剛石』

オイリュトミーとは？

言葉や音楽には、カラダやココロを内側から活気づけ、調和をもたらす力が満ちています。「美しいリズム」という意味のオイリュトミーは、生き生きした音の響きをカラダに満たして動く身体芸術です。100年前、ルドルフ・シュタイナーによってもたらされ、現在、世界各国の芸術、教育、治療の各分野で広がっています。